

プログラム名：社会リスクを低減する超ビッグデータプラットフォーム

PM名：原田 博司

プロジェクト名：ヘルスセキュリティ

委 託 研 究 開 発

実 施 状 況 報 告 書 (成 果)

平成 27 年度

研究開発課題名：

「医療データの統合・解析による予測モデルの構築とリスクシミュレータの

開発：医療需要シミュレータの開発」

研究開発機関名：

学校法人産業医科大学

研究開発責任者

松田晋哉

# I 当該年度における計画と成果

## 1. 当該年度の担当研究開発課題の目標と計画

医療・介護・福祉に掛かる超ビッグデータをこれまでになく次元で融合することにより、個人と地域の個性・複雑性・時間的動態性を高度に組み入れた「超高精度健康・社会リスク予測アルゴリズム」の開発に挑戦する。従来の予防医学が健康者の集団を対象とした平均的なリスク管理に留まっていたのに対し、新たに実現する予測アルゴリズムは疾病・介護・社会的困難をはじめとする様々な健康・社会リスクの個別管理・予見を可能とするものであり、これに基づき、状況悪化に先んじて効率的に回避・治療する従来になく「予見先手ヘルスケア・医療サービス」が実現される。

平成 27 年度・28 年度研究では職域健康情報（健診データ及びレセプトデータ）及び医療介護関連データ（福岡県内レセプトデータ及び厚生労働省が収集している各種データ）を用いて、医療介護・社会リスクシミュレータの小規模モデルを産業医科大学公衆衛生学教室の保有するコンピュータで作成する。作成した小規模モデルを基に、使用するデータ範囲を全国レベルに拡大する場合のコンピュータの必要要件について検討を行う。

## 2. 当該年度の担当研究開発課題の進捗状況と成果

### 2-1 進捗状況

1-A) 平成 27 年度は福岡県 1 自治体の国保・後期高齢者制度・介護・健診などの情報を 7 年分にわたり収集。個人レベルでの突合を図り、ほぼ全例の突合に成功した。医療介護サービスの利用と要介護度の変化との関連性を把握するスキームを予定通り整備した。

1-B) 地域の社会経済状況によるサービス利用と機能状態への影響を明らかにするべく、これを国勢調査ほか公開データから得られる地域属性情報を空間メッシュ情報に落とし、レセプトデータと結合する作業を進行中である。

以上から予定通り、もしくはそれ以上の進捗状況にあると判断される。

### 2-2 成果

医療介護・社会リスクシミュレータの小規模モデルを作成するための基礎資料の収集と部分的なデータベース化が終了した。また、国勢調査ほか公開データから得られる地域属性情報を空間メッシュ情報に落とし込む作業についてもプログラムの作成に取り掛かれる状況になっている。

### 2-3 新たな課題など

特になし

## 3. アウトリーチ活動報告

特になし